市立病院と地域医療機関とのパートナーシップで高度な医療の実現をめざす

PARTNERSHIP

病院広報・医療連携誌
Vol.42
2023.5
鹿児島市立病院だより

緊急レポート

COVID-19 5類移行

—鹿児島市立病院のCOVID-19対応

イベントレポート

わくわく看護展開催

～未来の看護師を育てる～

PICK UP!

最新の心臓血管撮影装置の運用開始

特集 | ISO取得を目指す臨床検査部

検査データを正確かつ迅速に提供し、急性期医療を支える

特別企画

祝！黄色ストラップ卒業

1年目看護師とプリセプターナースに聞く

連載企画

「鹿児島医療連携」最前線

田上記念病院
たびらウイメンズクリニック

COVID-19 ５類移行
―鹿児島市立病院のCOVID-19対応

病院長 坪内 博仁

筆者と感染対策室および診療の中心となったコロナ会議のメンバー

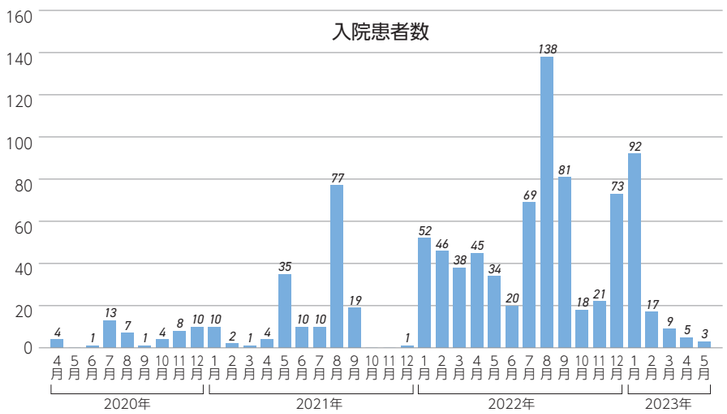
令和５年５月８日を以て、COVID-19は指定感染症から季節性インフルエンザなどと同じ５類へ移行しました。鹿児島市立病院は、鹿児島医療圏唯一の第２種感染症指定医療機関として、当初は発熱者などの疑似症例に対応し、感染拡大後は県下の中等症･重症者や小児･妊婦患者を受け入れ、救急医療、成育医療、がん診療などの通常診療をできるだけ維持しながら、常に最前線に立って対応してきました。この機会に、この感染症と当院の対応を振り返りたいと思います。

第1波～第3波（2020年～2021年初め）
―診療体制の整備

COVID-19の国内第１例目は令和２年１月に発生した武漢渡航歴のある患者で、２月クルーズ船ダイアモンドプリンセス号での集団感染で712人中14人の死者がでたことから、国内は騒然とした状況になりました。鹿児島県の第１例目は、同年５月に発生したイギリス渡航歴のある患者でした。この患者は通常の経過をたどったものの、ＰＣＲが陰性にならないという理由で２ヶ月間入院していました。やがて、エビデンスを基に入院期間の基準が定まりました。

また当初、ＰＣＲ検査は、厚労省がキットを配布する行政検査に限られていました。そのため、発熱者などCOVID-19が否定できず、２日間にわたってコロナ病床に隔離し、フルＰＰＥで対応していました。診断の重要性を痛感し、当院ではＰＣＲ検査機器をごく初期に購入し、信頼性の高い検査体制を作り、現場の混乱を収拾しました。ＰＣＲ検査ができる検査技師が、２４時間体制で対応してくれました。その後も、臨床検査部は抗原定量検査やフィルムアレイを導入し、検査体制を進化させ、当院のCOVID-19対応の基盤となっています。

市立病院は患者を受け入れることになることから、定期的に感染対策室を中心としたコロナ会議を開催して、早くから準備を進めました。院内の感染対策に加え、放射線部ではＣＴ検査、薬剤部ではレムデシビル使用のための対応をしました。軽症・中等症はCOVID-19病床で呼吸器内科が、小児は小児科、妊婦は産婦人科など専門診療科が主治医になり、重症者はＩＣＵで診療するルールを決めました。結果的に、濃淡はあるにせよ、多くの診療科がCOVID-19患者の診療に参加し、病院全体としてCOVID-19に対応することができたと思っています。



（図1）鹿児島市立病院のCOVID-19関連入院患者数（総数は978名、中等症以上は38%）

第4波～第5波（2021年）
―デルタ株は現実的な大きな試練

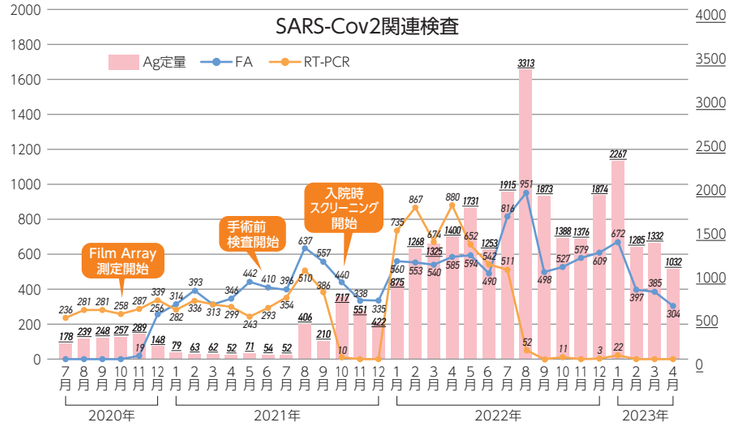
令和３年５月のゴールデンウィーク（GW）に武漢株から変異したアルファ株による第４波が、同年８月にデルタ株による第５波のピークがありました。

開発が進められていたファイザー社やモデルナ社のmRNAワクチンの国際第３相臨床試験の結果、有効率は95%と極めて効果があることが明らかになりました。日本でも令和３年、先ず医療従事者に、次いで高齢者、一般成人の順に接種が進みました。当院は、同年５月、接種医療機関が少ない時期に土日を返上してワクチン接種に取り組みました。

その頃は、患者の重症度はおおまかに無症状･軽症80%、中等症15%、重症５%でした。第５波では、優先的にワクチン接種を進めた高齢者の発症が少なく、ワクチン接種が行き渡っていない中高年者の中等症･重症者患者や妊婦を含む母親と小児のペア感染が多いという特徴がありました。当院はCOVID-19病床を最大42床まで拡大して、対応しました。通常の診療にも影響を及ぼす状況になり、下鶴市長と記者会見して、市民に理解と協力をお願いしました。

第6波～第8波（2022年～現在）
―オミクロン株の蔓延

令和３年にはワクチン接種が若年者にも広がり、令和４年にはウイルスはそれまでの系統と異なるオミクロン株に変異し、免疫回避して感染力が増すと同時に、症状は軽症化しました。実際、オミクロン株の蔓延により、感染者は爆発的に増え、鹿児島県でも、第５波のピークは251人だったのに対し、第８波では最大5209人に達しました。多くの病院で院内感染が発生し、医療の逼迫を招きました。当院でも起こりましたが、感染対策室の迅速で適切な対応で最小限に留められたと思います。



（図2）SARS-CoV2検査の推移
まず、RT-PCR検査を導入し、抗原定量検査、Film Array（FA）検査を導入し、目的に応じて使い分けている。FA検査は、呼吸器関連の病原体21種を同時にPCR検査できる。

オミクロン株の感染では、複数回のワクチン接種者では重症者や死亡者が極めて少なくなりました。一方で、持病のある高齢者では重症化率や死亡率が高いことが分かりました。大阪府コロナ対策本部会議では、第７波および第８波の重症化率はそれぞれ0.1%及び0.01%、死亡率はそれぞれ0.27%及び0.02%というデータを示しています。この軽症化には、ウイルスの毒性の低下、ワクチン接種の普及、既往感染者の増加などが関係していると考えられます。

当院では第５波と同様に、COVID-19病床を拡充し、高齢者の重症者や、小児・妊婦患者に対応し、妊婦の帝王切開例も増えました。また、無症状･軽症のCOVID-19患者の虫垂炎などの他疾患で治療が必要な患者にも対応しました。感染拡大の時期には、一般病床の運用を制限せざるを得ず、一部の患者様にご迷惑をおかけしました。

今後の展望

この度、GW後の感染拡大や医療機関の対応など懸念材料はあるものの、COVID-19は指定感染症から５類へ移行しました。このウイルスがすでにヒトに定着した現在、COVID-19は必ず罹患する病気になりました。インフルエンザや風邪のように、感染しても、普通は死なないようにワクチン接種や治療薬を準備しておくことが大切です。

私は、これまでの知見からウイルス感染症の制御には迅速で簡便な診断薬、効果の強い抗ウイルス薬、免疫を誘導して発症や重症化を予防するワクチンの３つが重要なことを当初より指摘しました。現在では、簡便で精度の高い抗原定性キットが普及し、効果のあるワクチンも開発されました。治療薬はベクルリー、ラゲブリオカプセル、パキロビッドパックなどが開発されましたが、既に使われなくなった抗体薬もあり、まだ十分ではありません。このウイルスは、今後も変異を繰り返し、毒性の強いウイルスになる可能性も考えると、より特異的で効果のある薬の開発が必要です。

診断薬、治療薬、ワクチンの開発が短期間でここまで進んだのは驚異的ですが、これまでのインフルエンザ、肝炎ウイルス、ＡＩＤＳウイルスなどを克服してきた医学や科学の進歩があったからです。一方で、COVID-19は日本の医療の脆弱性を露呈させました。「喉元過ぎれば…」でなく、その脆弱性を克服する取り組みが求められます。

終りに、関係医療機関、鹿児島県や鹿児島市の関係者、ならびに当院の職員の皆様に感謝申しあげます。

～未来の看護師を育てる～

わくわく看護展開催

看護師長 神宮 かおり

ドクターカー見学

看護展を院内で初開催！

2020年に世界規模で広まった新型コロナウイルス感染症は、これまでの既成概念を一変させてしまいましたが、とりわけ看護界においては「看護師の不足」がますます顕在化する結果ともなりました。

そこで、当院では未来の看護師の育成、看護の体験を通して看護への理解と関心を深めてもらうことを目的として、県内の小中高生とその保護者の方を対象に看護の魅力を伝える「わくわく看護展」を企画しました。一人でも多くの方に参加していただけるように、当初は夏休み期間に計画しましたが、折しも新型コロナウイルスの「第7波」が日本を襲い、鹿児島の感染者も4000人を超える現状から、開催の延期を余儀なくされました。そして今回、晴れて春休み期間の2023年3月25日（土）、3月26日（日）の2日間、当院の多目的ホールで開催することができました。事前予約不要、参加費無料とし、広報誌「市民のひろば」、KKB放送、ラジオ局にPRのご協力をいただき、248名の参加がありました。

看護の仕事を紹介し魅力を伝える！

参加された方は、まず、受付でプログラムとスタンプラリーのカードを受け取り、スタンプを集めながらより楽しく12ヵ所あるコーナーの見学や体験をしました。

看護のシゴト紹介映像では、当院の3本柱である、救急医療、成育医療、がん診療を中心に、その現場でいきいきと働く看護師を紹介しました。映像に見入っている方も多く、涙を流し視聴されている姿に、私達看護師の仕事のすばらしさを再認識する機会ともなりました。そして、現在当院では、27名のスペシャリスト（認定看護師19名、特定認定看護師3名、特定看護師3名、専門看護師1名、診療看護師1名）が活躍しています。そのスペシャリストを紹介するコーナーでは、「スペシャリストの具体的な仕事内容は？」「どうしたらなれるのか？」など、多くの質問がありました。また、進路相談のコーナーでは、「看護師や助産師になるためにはどういうコースがあるのか？」「どんな勉強をすればよいのか？」など26件58名の相談がありました。実際に働く看護師から体験談を交えての話を聞くことができたことは、夢や目的に向かって進路選択をするよい参考となったのではないでしょうか。

やりがいのある看護の仕事！実際に体験！

身体診察では、ハイブリッドシミュレータ“SCENARIO”を使用して、脈拍触知や呼吸音・心音・腸音の聴診を体験していただきました。聴診器を用いた聴診では、聞こえる音に「すごい音がする」と熱心に聴診器をあて、音の判断が異常の早期発見につながることを説明すると、更に興味を持ち何度も聴診をする姿がありました。モニター体験では、自分の心電図を目にし「テレビで見たことはあるけど、自分のものを見るのは初めて」と、嬉しそうに体験されていました。一次救命処置の胸骨圧迫では、“強く、速く、絶え間なく”というポイントを踏まえて真剣に取り組み、「意外と難しい」「結構きつい」と言いながら繰り返し体験され、次第に上達する姿に自然と拍手が沸き上がっていました。AED操作では、緊張しながらも装置から流れるアナウンスに従って操作できたことは貴重な体験となり、体験後に「倒れた人を助けたい」と使命感に駆られた様子で話をされる方もおられました。新生児ケア体験では、超低出生体重児（1,000g未満）のモデルの抱っこや保育器でのオムツ交換などを体験し、小さく生まれてから成長していく姿を写真で見ていただきました。他にも、クリッパーパグを使用して患者そして自身を守るための手洗いの状態を確認していただいたり、安全に配慮した車椅子やストレッチャーでの移動などを体験していただきました。様々な体験を通して、健康や命に関わる看護のやりがいを感じていただけたようでした。

より看護を身近に！

やりがいのある看護の仕事を体験していただいた後に、屋上にあるヘリポートやドクターカー、PPE（個人防護具）を装着して働く感染症病棟、集中治療部、手術室など普段見ることのできない医療の現場を実際に見学していただきました。

最後にアンケートにご協力いただき、「看護師のイメージができ興味をもった」「こんな機会は初めてで、将来なりたい仕事はまだ決まってないが、一つの選択肢として身近な職業になった」などのご回答をいただきました。医療の現場を実際に見学したり、看護の体験をしたりすることにより、看護を身近に感じ、関心を深めていただくよい機会となったのではないでしょうか。

今後も開催！

これからの社会を担っていく世代に、実際の医療現場の見学や看護体験を通して看護をもっと身近に感じ関心を深めてもらい、そして職業選択の契機となるように、さらに工夫を凝らし、今後も継続して看護展を開催していきたい考えています。

次回は、夏休み期間の2023年7月29日（土）、7月30日（日）の2日間の開催を予定しております。

神宮かおり（じんぐう・かおり）
看護師特定行為研修センター（看護部併任）看護師長
看護師特定行為研修センター副センター長
看護師特定行為研修実施責任者
〈資格〉
特定認定看護師（クリティカルケア）

スタンプラリーも実施しました
院内を案内する看護師

生体監視モニター体験

新生児ケア体験

ストレッチャー体験

CPR体験

シミュレーション体験

車いす体験

病院見学（手術室）

進路相談コーナー

感染対策体験

スペシャリスト紹介

ユニフォーム掲示

※写真中の参加者の皆様に写真撮影及び誌面への掲載許可をいただいています

最新の心臓血管撮影装置の運用開始① ［医師の視点］

機能向上で幅広い対応が可能に

循環器内科部長 **桶谷 直也**

新装置への更新で安全性と確実性が向上

いつも大変お世話になっております。当院では心臓血管撮影装置の更新を行い、2023年3月より運用できることとなりました。工事中はコロナ感染者の増加などとも重なり、カテーテル検査の延期などでご紹介いただいた先生方にご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

心臓血管撮影装置はその用途から安全性・確実性が求められ、今まで使っていた他社製のものが故障が多く、何度か検査中に部屋を変わるという危険な事態となっておりましたのでまだ6－7年しか使用しておりませんでしたが、非常に安定性のいい高性能のフィリップ社製のものに更新しました。こちらの最大の特徴は管球の冷却性能がいいために壊れにくく、またわれわれベテラン陣の眼にもきれいに見えることがあります。

また透視性能がよいために患者様・術者の被曝は従来の3分の1に、また以前はリファレンスと言って今見ている画像の横に先に造影したものを見せてもらってましたが、今後はロードマップという撮影した血管の状態をそのまま見ている画面に表示できるようになったために、ガイドワイヤーを持って行く際の再造影の必要性が減り、造影剤も低減できます。透視できる範囲が広いため、下肢血管のような治療部位の広いものにも対応でき、当院は救急が多いため他のカテーテル室が使用中の場合には同装置で脳血管の治療も行えます。また装置そのものが非常にコンパクトになったため心肺停止で来られた方に体外補助循環装置のPCPSや人工呼吸器を使いながらのカテーテル治療もスムーズに行えるかと思います。

24時間循環器内科医が当直しておりますので、今後もご紹介いただけますと幸いに存じます。今後ともよろしくお願いいたします。

桶谷直也（おけたに・なおや）

医学博士
日本循環器学会専門医
日本内科学会認定医
日本内科学会総合内科専門医
臨床研修指導医
日本不整脈心電学会不整脈専門医
難病指定医

〈所属学会〉
日本内科学会
日本循環器学会
日本不整脈心電学会

当院に導入されたフィリップス社製血管撮影装置「Azurion Biplane」（左）　ベットサイドのマウスやコントロールパネルで表示画面を自由にレイアウト可能な58インチ大型モニタを搭載（右上）　テーブルサイドのタッチスクリーンモジュールで画像表示・再生などダイレクトに操作が可能（右下）

最新の心臓血管撮影装置の運用開始② ［放射線技術科の視点］

最新技術でより高精度な治療を

放射線技術科 科長 **西元 辰也**

患者さまの負担を減らし、高度な治療をより安全に

放射線技術科は、放射線科医師、外来検査治療室看護師とともに放射線部として各診療科のニーズに応え様々な画像情報の提供を行っております。今回ご紹介する血管造影装置は、旧病院より移設した装置の更新により令和5年3月より稼動しております。

血管造影装置は、カテーテルと呼ばれる細い管を主に足の付け根や肘の血管から目的の血管や臓器まで挿入し、造影剤を注入して血管の状態を撮影する装置で、カテーテル検査やアンギオ検査と呼ばれる検査を行っています。血管の狭窄や閉塞、動脈瘤の有無、腫瘍の分布や血流・血行状態を知ることができ、適応症例においては、カテーテルを用いた血管内治療（Interventional Radiology：IVR）を行っています。今回導入した装置は、前装置より高精細検出器（画素が154μmと細かくなり、濃度分解能が14bitから16bitに改善）を搭載しており、透視・撮影時に拡大しても高精細画像の表示が可能となりました。加えて、大画面（58インチ）マルチモニターの導入により、細かな血管や病変部が鮮明に確認できるため、診断・治療の際に大きな力を発揮すると考えます。また、カテーテル治療の手技をサポートするリアルタイムロードマップ機能、リアルタイムステント強調表示機能などの最新技術の機能を有し、従来よりもさらに高精度なカテーテル治療が実現可能となり、検査や治療中のリスクを最小限に抑える機能や被ばく線量を低減させるテクノロジーが実装されており、手技の精度向上や治療時間短縮などが大いに期待できます。複雑化・高度化しつつある治療をより安全に行うことができ、患者さまの負担をより軽減できるようになりました。

鹿児島市立病院では、血管造影装置が手術室を含み4台体制で稼働しており、脳血管領域、心臓血管領域、下肢血管領域等の循環器系疾患や、胸・腹部血管領域等の出血や悪性腫瘍等に対してのカテーテル検査での診断・治療を行っております。循環器内科、脳神経外科・放射線科など各診療科の医師が同時に検査・治療が可能で、緊急検査にも迅速に対応しております。

血管造影検査において放射線技師は、装置の操作・管理を行い、医師がスムーズに検査・治療を行えるようにサポートし、検査中の患者さまの状態を心電図などから把握し、安心・安全な検査や治療が行われるように日々研鑽を行っております。また、患者さま、および術者（医師）の被ばくが最小限になるように被ばく低減にも心がけております。血管造影検査では検査や治療が円滑に行われるように、医師、看護師、コメディカルスタッフとともに連携を取り、チーム医療に努めています。

操作室に大型モニタを配置し多くのメディカルスタッフが画像を確認することが可能。操作室から治療場面に合わせた表示画面のレイアウト変更などの治療のサポートを行っている

西元 辰也（にしもと・たつや）

診療放射線技師
放射線管理士
放射線機器管理士
日本診療放射線技師会会員
日本放射線技術学会会員
日本核医学技術学会九州地方会理事
臨床工学技士（有資格）

検査データを正確かつ迅速に提供し、急性期医療を支える

臨床検査技術科 主幹 **原口 政臣**

正確なデータを迅速に提供

臨床検査技術科は堀剛副院長を科長として現在、42名（臨床検査技師36名、准看護師1名、技術補助員3名、事務補助員2名）で業務を行っています。（2023年3月現在）

臨床検査技師の仕事は、あまり解らない・見えないものです。（検査が外注検査となっている病院ではなおさらだと思います）2020年の新型コロナの流行によりPCR検査が一般化されることに伴って臨床検査技師が認識されることにもなったかと思いますが、それ以外にも医療現場で患者ケア・医療行為の判断・診断の元になるデータを多く扱っており、患者さんから採取された検体を分析し検査結果として臨床へ報告することを行っています。臨床の現場では、検体を出せば結果が出るといった見え方をしている方も多いと思いますが、我々臨床検査技師はそのデータを正確・迅速に提供することに注力しています。精度の高く、正確なデータの提供は、全ての測定項目において日々のコントロール測定・キャリブレーション（測定校正）や全ての機器のチェック・メンテナンスを確実に行うことで可能となります。また、採取された検体の状態も大きく結果値に影響を及ぼすため、検体の観察・管理も重要です。

ISO15189取得に向けて関連機器をバージョンアップ

当科の業務内容は、検体検査と生理機能検査に大きく分かれております。検体検査の中には、生化学・免疫検査、血球算定検査、血液凝固・線溶検査、一般検査、輸血検査、細菌検査があります。生理機能検査は、一般電気生理、超音波に分けられ、一般電気生理検査には心電図、脳波、筋電図、呼吸機能、聴力機能などがあり、超音波検査は部位別に腹部、心臓、血管などがあります。また、始業前採血として中央採血室で平日8時から30分間の採血業務を当番で行い中央採血室運営に協力しています。

2022年度から当科では臨床検査室の国際認定であるISO15189取得を目指し取り組んでおり、その為の機器更新を終えましたので、そのことについて紹介します。今回の機器更新では、如何にヒューマンエラーにつながる用手操作・管理を自動化できるか、感染対策の向上が見込めるか、測定時間の短縮につながるかを念頭に、多種・多メーカーで構成されていた検体検査部内の機器の集約をすることを目指して取り組みました。

2022年8月より順次検体検査部内の主要な大型機器の更新、2023年2月に当院では初の検体前処理搬送装置の導入も行いました。それにより検体受付、開栓、子分注、測定機器搬送、回収、閉栓、測定後の検体冷蔵保存が一括管理が可能となりました。また自動分注ができることで、採血菅の集約（最大5本を1本へ）も可能となりました。

生化学・免疫検査は、COBAS 8000（3,200テスト／時間）を2式、ARCHITECT i1000SR（100テスト／時間）1式、STACIA（270テスト／時間）1式の大型機器とHA-8190V、OM-6060、MT-6500の小型機器を配置しており、1日約10,000テスト、約900本の検体を扱っています。これまでの機器と異なり、試薬が全てパッケージ化されているため用手操作による試薬ボトルへの移し替えや手入力によるロット管理が無く、試薬パックの投入により自動記録することができます。

血液算定装置は、これまで4台・2メーカーの構成で精度管理、メンテナンスに難渋していたため、測定装置4台、塗抹染色装置2台、測定後検体保存装置までを搬送装置にて一体で繋ぎ、XRシリーズ連結機で世界1号機の導入となりました。（別途、新生児検体用の同メーカー小型機1台）これにより、血液検体の受付から測定・スライド作成、髄液など穿刺液の細胞数測定を行っており、測定後の検体保存までを一括管理できるようになり、検体の管理を確実に行うことができます。また、この機器は、毎日の精度管理データがリアルタイムに集計されており、日本医師会や日本臨床検査技師会等の外部精度管理事業では評価されない項目に関しても全国の精度管理集計結果を参照し、他施設との検査値の比較検討ができるため、外部精度管理の代用が可能となっています。

血液凝固線溶測定装置は、前装置と比較して測定時間が大幅に短縮し、血液算定装置と同一メーカーのため、毎日の精度管理データを使用し全国施設集計との比較が可能となっています。

新型コロナ検査に関して当院は早くから新型コロナ抗原定量検査を導入、24時間運用を開始して現在は新型コロナ検査の主軸として院内感染対策に寄与しています。また、遺伝子検査に関しては、2020年度には核酸抽出装置、RT-PCR装置を導入し、測定を開始。2020年11月にはFilm Arrayを導入し、24時間体制の一翼を担っております。

直向きに業務に向き合うことが良質な病院運営に直結する

当院は3次救急医療施設であり、また574床の入院患者の時間外検査の充実のために、臨床検査技術科職員全員で取り組んでいます。生化学・免疫検査、血液・一般検査、輸血検査、細菌検査、心臓カテーテル検査などの緊急性が高いものを中心に検査に従事しています。（2021年度 時間外検査件数：119,982件、心臓カテーテル件数：512件）時間外の検査件数は年々増加しており毎年10%増で推移しています。特に細菌検査でパニック値となる血液培養検体の陽性報告は8年前より365日報告を実施ています。また細菌検査担当者による日曜出勤体制も2021年度より開始し、細菌検査の報告体制を強化しAST（抗菌薬適正使用支援チーム）の活動に寄与しています。チーム医療へは現在のところ、ICT（院内感染対策チーム）、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）、NST（栄養サポートチーム）に参画しています。

最後になりますが、2022年度より当院臨床検査技術科は、病理診断技術科と共にISO15189の認定を受けるべく準備・作業を行っており、認定を受ければ県内病院検査室では2カ所目となります。（2023年3月調べ）良質で継続性のある病院運営に必要であり続け、またその下支えができるよう、日々の業務を直向きに行ってゆく臨床検査技師であり組織でありたいと思っております。

臨床検査技術科のスタッフ一同

1血球算定（CBC）の検体をセットしている様子　2生化学・免疫検査の至急検体をセットしている様子　3新しい試薬ボトルを投入している様子　4測定された検査結果の確認・承認作業　5凝固線溶検査の検体をセットしている様子　6輸血検査の前処理操作している様子　7安全キャビネット内でFilmArrayの検体処理している様子　8微生物の鏡検している様子

年間件数（2021年度）	
一般検査：55,452件	血液検査：740,484件
生化学検査：2,009,267件	血清・免疫検査：63,832件
細菌検査：56,200件	輸血製剤使用数：35,184単位
生理機能検査：41,822件	

堀 剛（ほり・たけし）
臨床検査部 副院長【併任】
医学博士
日本内科学会 認定医
日本消化器病学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 認定医・指導医
日本肝臓病学会 専門医・指導医

原口 政臣（はらぐち・まさおみ）
臨床検査技師
認定医療メディエーター B
認定医療安全管理者
日本臨床検査技師会会員
日本環境感染学会会員

祝！黄色ストラップ卒業

1年目看護師とプリセプターナースに聞く

鹿児島市立病院では入職1年目の新人看護師はプリセプティーと呼ばれ、黄色いストラップを付けて業務にあたっており、その指導にはプリセプターと呼ばれる先輩看護師が当たっています。今回はプリセプターとプリセプティーのコンビ3組にインタビューを実施しました。この1年で成長し黄色ストラップを卒業した新人看護師と、その指導に当たった先輩看護師たちの想いに迫ります。

プリセプター（指導先輩看護師）への質問

- **Q1.** 初めて会った時のプリセプティー（新人看護師）の印象を教えてください
- **Q2.** プリセプティーが1年間で成長できたなと思うことを教えてください
- **Q3.** 得意な看護技術を教えてください
- **Q4.** 新人時代を乗り越えるためのアドバイスをお願いします

プリセプティー（新人看護師）への質問

- **Q1.** 初めて会った時のプリセプター（指導担当先輩看護師）の印象を教えてください
- **Q2.** 一年間で成長できたことを教えてください
- **Q3.** 得意な看護技術を教えてください
- **Q4.** プリセプターの『これはすご技だな』と思うことを教えてください

5南病棟 プリセプター 玉利 有倫香

A1. プリセプティーの御領園さんは近所に住んでいたので、幼少期に家族ぐるみで付き合いがありました。とてもしっかり者で勉強熱心なお姉さんになっていて驚きました。

A2. 入職時からメモを良く取り仕事を覚えようと一生懸命でした。最初は覚えることで精一杯でしたが、最近では患者さんに寄り添う看護ができる余裕ができてきたと思います。

A3. 採血です。血管確保よりは得意です。

A4. 辛いこともあると思いますが、やはりなんでも相談できる同期がいることが大切だと思います。ひとりで抱え込まず、同期と気持ちを共有してストレス発散することが一番です。

5南病棟 プリセプティー 御領園 莉奈

A1. 病棟配属後のオリエンテーションが初めて会った時でした。緊張していた私たちに気さくに声をかけてくださいました。シャドウイングの際、患者さんに寄り添い優しく笑顔で話している姿が印象的でした。

A2. 4月と比べてできることが増えたことです。自宅での振り返りをレポートにしてプリセプターに提出し、一緒に調べ、考えることで少しずつ理解し実践にも生かすことができ自分自身の成長を実感する機会が増えました。

A3. 最近、「あなたと話すと元気が出るよ。」「笑顔が素敵だね。」と患者さんが嬉しい言葉をかけてくださります。笑顔で明るく患者さんに声かけることが今の私の心がけている点でもあり、得意なのかもしれません。

A4. 患者さんに細やかな配慮ができている点です。患者さんのことを一番に考え意識レベルが良くない患者さんにも必ず声をかけケアに入っていて、患者さんが安心して過ごせる環境を整えているところがすごいと思います。

5北病棟 プリセプター 湯田 若葉

A1. 不安や緊張感が伝わってきました。そのような中でも、説明を熱心に聞きながらメモをとったり質問をしたり、とてもやる気のある一生懸命な姿が印象的でした。

A2. たくさんの成長を見せてくれましたが、一番は、優先順位を考えてケアができるようになったことだと思います。患者さんや付添い家族とコミュニケーションをとりながら多重課題に立ち向かう姿が頼もしいです。

A3. 自信を持って得意とは言えないのですが、患者さんに対する清潔ケアが好きです。沐浴中のリラックスしている様子や久しぶりに洗髪した子どもたちのすっきりした表情にやりがいを感じます。

A4. 新人の時は失敗して落ち込むことも多かったですが、病棟の先輩方や友人、家族に話をすることによって何度も励まされました。信頼して話せる人がいると心強いのではないかと思います。

5北病棟 プリセプティー 有留 麗菜

A1. 笑顔で多くの患児・家族・スタッフと接していて優しそうな印象でした。挨拶から丁寧であり緊張をほぐしてくれるような包容力がある為、自分の理想とする看護師像にとても近い方だと思いました。

A2. 入職して報告・連絡・相談の大切さをより感じました。自己判断せず、先輩に確認することや、分からないことをそのままにせず、聞いたり自己学習を繰り返したりする姿勢は、この1年で特に自分が成長できたことだと思います。

A3. 沐浴は小児科で必要不可欠であり、患児が気持ちよさそうにしている姿にとても癒されます。沐浴は、退院に向けての育児指導としても重要で、とてもやりがいのある技術だと思います。

A4. 患児の状態をしっかりとアセスメントし、必要なケアを素早く行い状態を安定させている姿や、児の話を丁寧に聞くことに加え家族の思いも傾聴し、丁寧に対応し笑顔にさせている場面も印象的で、すご技だなと思いました。

6南病棟 プリセプター 山ノ内 純奈

A1. 一言で言うと「真面目」です。説明したことを一生懸命メモに取り、病棟勤務初日終了時に「何か聞きたいことはなかった?」と聞くと、NEWSスコアについて質問をしてくれて質問力があるなと思い、その時のことは今でも覚えています。

A2. 安全な看護をするために行動するところです。入職当初から分からないことや不安なことはすぐに先輩看護師に確認していました。そのことが「安全な看護」への意識作りや実際の看護へ繋がっていると感じます。

A3. 2年前に皮膚・排泄ケアの院内認定看護師となり、褥瘡予防やストーマ管理についてスタッフへの指導・教育をしています。まだ「得意です!」と胸を張って言えませんが、自分の中では『皮膚創傷ケア』が強みになってきていると感じています。

A4. 新人時代は、慣れない環境や人間関係の中で働くので精神的身体的にストレスを感じます。そのため心身を休める方法を知っておくことは大事だと思います。疲れているなと感じたら好きなことをして好きなものを食べて自分自身を癒してあげて下さい。そうやって自分自身とたくさん向き合いながら新人時代を乗り越えていってほしいなと思います。

6南病棟 プリセプティー 光瀬 友希

A1. 患者さんに丁寧に接しているところや、仕事を教えてくださり優しいお姉さんという印象でした。先輩（プリセプター）のような看護師になりたいと思いました。

A2. 分からないことや知らないことをすぐに報告、連絡、相談できるようになった所です。

A3. 難しい人の採血ができた時は、嬉しく思います。

A4. 不安や苦痛が取り除けるよう、患者さんの気持ちになって看護をしている所。相談した時に、病態について分かりやすく説明しながら適切なアドバイスをしてくれる所。勤務が同じだと安心できます。

市立病院×かかりつけ医「鹿児島医療連携」最前線

鹿児島市立病院では、地域の医療機関（かかりつけ医など）と相互に円滑な連携を はかりながら、患者さんが適切な医療を受けられるよう積極的に取り組んでいます。

CASE 01

中村 浩一郎 医師
田上記念病院／院長・理事長
日本内科学会 会員／日本神経学会 会員／日本リハビリテーション医学会 会員／日本てんかん学会 会員／日本内科学会 認定医／日本神経学会 脳神経内科専門医

×

西牟田 洋介 医師
鹿児島市立病院／脳神経外科 科長
日本脳神経外科学会専門医 指導医／日本脳神経血管内治療学会専門医 指導医／日本脳卒中学会専門医 指導医／医学博士

オンラインカンファレンスで スムーズな連携を目指す

西牟田　当院では脳神経外科と脳神経内科が協力し、重症の患者さんを中心に脳卒中センターにて24時間体制で対応しています。退院後は貴院と連携をとり、引き続き治療とリハビリをお願いしています。

中村　はい。当院では高次脳機能障害の患者さんを多く受け入れていますが、在宅復帰率は高く、特養も含めると97.2%です。事実、回復期リハビリテーション病棟の患者さんの入院時FIMは全国平均より3.8点低いですが、退院時は11.2点も高い状態です。PT、OT、STを揃えて体制も充実しています。当院ではリカバーできる人を支えて、ご自宅に帰すことを目的にスタッフ一同頑張っています。

西牟田　素晴らしい体制で、安心して連携することができます。当院では週に1回、脳卒中連携カンファレンスを行っており、貴院を含む市内19施設とオンラインでつなぎ、日頃からスムーズな連携を目指しています。

より効果の高い、ロボットリハビリテーション

中村　西牟田先生は以前、当院にご見学に来られたことがありましたが、いかがでしたか。

西牟田　多くの先進的なロボットを揃えていらっしゃって驚きました。

中村　リハビリは量と質が大切です。ロボットリハビリテーションを導入すると、量を増やすことができます。たとえばTOYOTAウェルウォークは麻痺した足にロボットを装着して正常な歩行をアシストするのですが、AIが患者さんの歩行を分析してくれます。ロボットを使用することで1.65倍の効果があるんですよ。

西牟田　すごいですね。また貴院は、転院した患者さんの歩行動画をデータで送ってくださるので、そのようなフィードバックは当院としても非常にありがたいですし、お互いの信頼にもつながりますよね。

中村　ありがとうございます。一人でも多くの患者さんの日常を取り戻すために、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

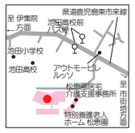
西牟田　こちらこそよろしくお願いします。今後も地域の医療をともに支えていきましょう。

医療法人春風会 田上記念病院

診療科目　脳神経内科／循環器内科／消化器内科／リハビリテーション科／歯科

■住所／鹿児島市西別府町1799番地
■TEL／099-282-0051
■URL／https://tagamikinen-hp.jp
■駐車場／あり(150台)
■アクセス／鹿児島ICより松元方面へ車で約5分
鹿児島中央駅より車で約15分
池田高校前バス停より徒歩2分

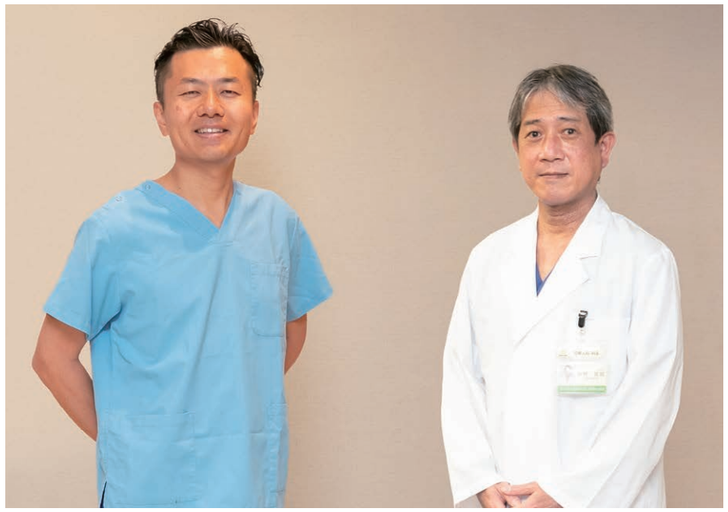
ホームページ



診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	／	／
14:00～17:30	○	○	○	○	○	○	／	／

※初診の受付時間は8:30～17:00。再診の受付時間は9:00～12:30/14:00～17:30となっています。

CASE 02



田平 達則 医師
たびらウイメンズクリニック／理事長・院長
日本産科婦人科学会 産婦人科専門医／日本周産期・新生児医学会 周産期専門医（母体・胎児）／日本産科婦人科遺伝診療学会 認定医（周産期）／日本産科婦人科学会 女性のヘルスケアアドバイザー／母体保護法指定医師／J-CIMELSインストラクター

×

中村 俊昭 医師
鹿児島市立病院／産婦人科 科長
日本産科婦人科学会専門医 指導医／婦人科腫瘍専門医指導医 代議員／がん治療認定医

信頼関係があるから、安心して連携できる

中村　現在、産科ではハイリスクの妊婦さんを、婦人科では悪性腫瘍をはじめ当院で管理した方がよいと判断される患者さんをご紹介いただいています。通常は連携室を通してですが、急患の場合は直接ご連絡いただいていますね。

田平　はい。妊婦さんに関しては、谷山から市立病院へ行くのは大変なので、できることはなるべく当院で診るように心がけています。連携に関しては、私自身、貴院そして中村先生には後期研修医の時から10年間お世話になっていたこともあり、とても連携しやすいです。上皮内がんまでなら当院でも手術可能ですが、それ以降は貴院で治療をお願いし、治療後のフォローアップを再び当院で担当させていただいています。

中村　田平先生は研修医の頃から真面目でひたむきな先生だったので、安心して患者さんをお任せすることができます。

田平　ありがとうございます。中村先生には手術をはじめ、本当に多くのことを教えて頂いたので、これから医療連携という形で恩返ししていきたいと思っています。

谷山地区の患者さんを しっかりサポートしたい

中村　田平先生は当院の医師たちをよくご存知なので、連携する際に「この患者さんはこの先生がいい」というのはあるのでしょうか？

田平　症例によってはもちろんありますが、それ以外にも「患者さんが行きやすい曜日」などを考慮してお願いすることもあります。

中村　とても患者さん思いですね。昨年開業されたばかりですが、これからどのようなクリニックを目指していきたいですか？

田平　地域のかかりつけ医として、谷山地区の患者さんをしっかりとサポートしていきながら、貴院との連携もきちんと行っていきたいです。現在は当院からの紹介になりますが、いずれは貴院からも逆紹介していただけるクリニックを目指していきたいです。

中村　これからも鹿児島の妊婦さん、そして婦人科の患者さんを一緒に支えていきましょう。

田平　はい！これからもどうぞよろしくお願いします。

医療法人光広会 たびらウイメンズクリニック

診療科目　産科／婦人科／産婦人科

■住所／鹿児島市西谷山1丁目1-3
■TEL／099-208-0303
■URL／https://tabira-womens.com
■駐車場／あり
■アクセス／JR「谷山駅」から徒歩約10分
市電「谷山電停」から徒歩約15分
「南高校バス停」から徒歩5分
谷山インターから車で約5分

ホームページ

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	／	／
14:00～18:00	○	○	○	／	○	／	／	／

病院広報・医療連携誌
PARTNERSHIP
鹿児島市立病院だより
Vol.42
2023.5

■発行日／2023年(令和5年)5月　■発行者／〒890-8760 鹿児島市上荒田町37番1号 坪内博仁[鹿児島市立病院長(事業管理者)]　■担当者／医療連携・入退院センター
■連絡先／TEL.099-230-7100　FAX.099-230-7101　http://www.kch.kagoshima.jp

NICU・GCUスタッフ(後列左より、栗本、大橋、齊藤、屋良、内藤、大塚、山本、中列左より、繁昌、久米、平川、松尾、木部、藤代、前列左より、河野、川原、有馬、徳久部長、有薗、庵地、鮫島)

編集後記
Editor's notes

今回は、当院のCOVID-19対応の振り返りや未来の看護師育成、心臓血管撮影装置の運用開始など、多彩な内容を取り上げました。臨床検査技術科の特集では、医療現場で欠かせない役割を果たしている専門分野を最新の機器とともに紹介しています。また、看護師育成にも力を注ぎ、未来の看護師を育てるイベント「わくわく看護展」の開催についても掲載しました。医療連携企画は脳神経外科と産婦人科です。コロナ感染症も5類へ移行しましたが、今後も地域の方々に役立つ情報提供に向けて編集部一同努力してまいります。